琉球リースだより

新風

mi-kaji
【みーかじ】

いろんなところでリース

簡単解説
パッパッとわかるリースの話

新風【みーかじ】
2026
第34号
編集／発行：株式会社琉球リース　企画・制作：株式会社アドスタッフ博報堂

2026
第34号

リースカー向け自動車保険のご案内

リース契約に自動車保険を組み込むと、楽・得・安心です♪

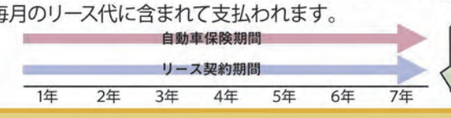
楽

リースカー向け自動車保険2つのポイント

1. 自動車保険のご契約管理・保険料のお支払いがラクです！

⇒自動車保険の契約期間はリース契約期間にあわせて設定され、**毎年の更新手続きは不要です。**

⇒保険料は毎月のリース代に含まれて支払われます。



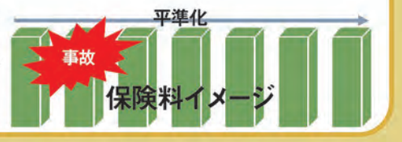
☑自動車保険の契約期間はリース契約期間にあわせて設定されます。
☑「長期一括払契約」のため、毎年の更新の手続きも不要です。

得

2. リース期間中の保険料はずーっと一定です！

⇒万が一事故がおきた場合も保険料は変わりません！

⇒また、リース契約期間中、保険料が平準化されるため、特に**新規保険や割引率の大きい方にお勧めです！**



万が一の事故でも安心！
充実した補償とサービスでお客さまをしっかりとお守りします！

☑ 長期一括払契約
☑ リースカーの車両費用保険特約
☑ 充実のロードサービス

当社は、2019年10月から大同火災海上保険（株）の代理店として
「リースカー向け自動車保険」の取り扱いを始めました！

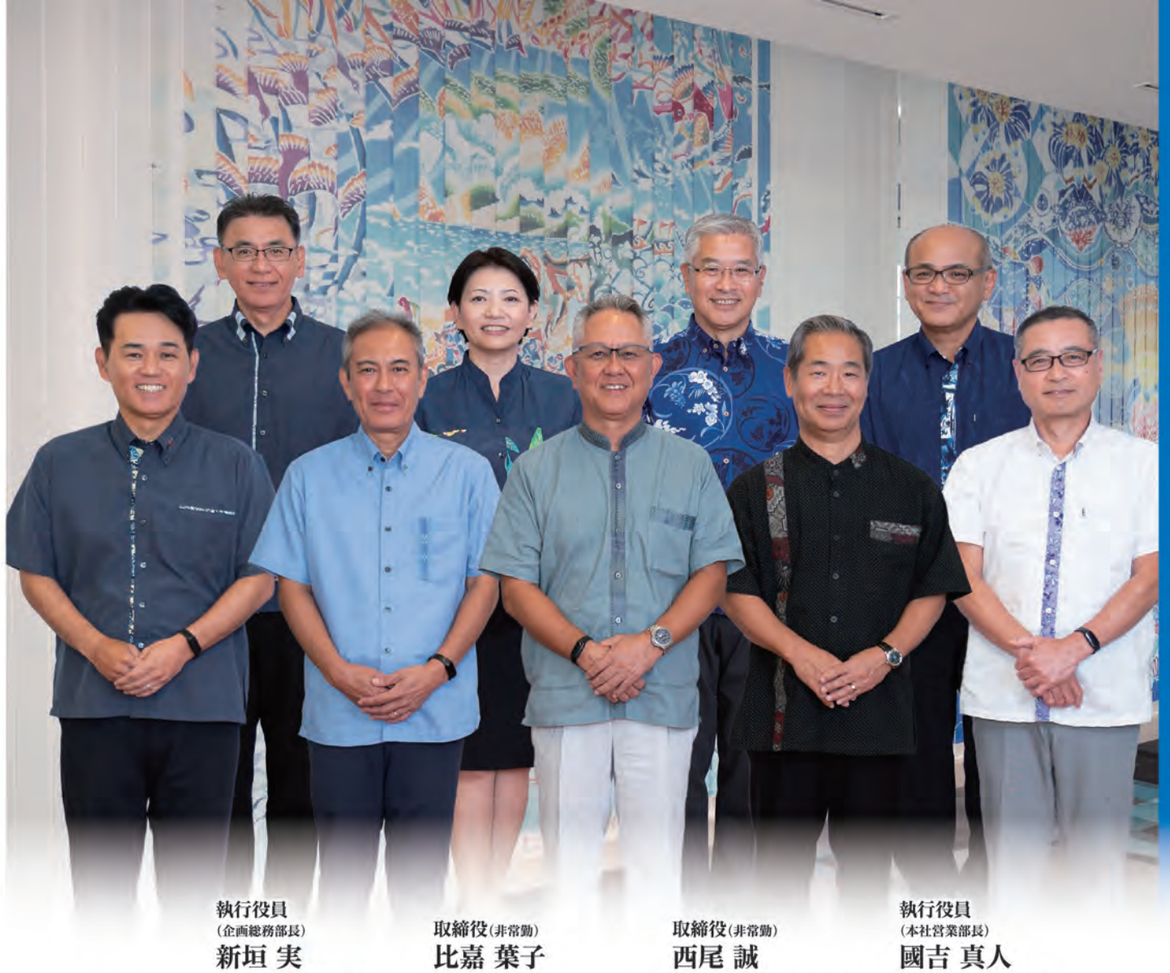
詳しくは、当社の営業担当者、または営業統括部までお問い合わせください。

琉球リース | 沖縄のために、挑みたい未来がある。 琉球銀行グループ

https://www.rlease.co.jp/

本　　社／〒900-8550 沖縄県那覇市久茂地1丁目11番1号 琉球銀行本店ビル3階　TEL.098-866-5500 FAX.098-863-0381
中北部営業部／〒904-0004 沖縄市中央1丁目1番10号 琉球銀行コザ支店共同ビル6階　TEL.098-939-4880 FAX.098-939-4882

ご挨拶 —— 琉球リースの役員をご紹介します。



執行役員（企画総務部長） 新垣 実
取締役（非常勤） 比嘉 葉子
取締役（非常勤） 西尾 誠
執行役員（本社営業部長） 國吉 真人
監査役（非常勤） 渡名喜 郁夫
新任 常務取締役 嘉陽 裕史
代表取締役社長 古堅 雄二
常務取締役 渡嘉敷 斉
監査役 宮城 英和

ごあいさつ

代表取締役社長　古堅 雄二

盛夏の候、お客さま各位におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は、弊社が50有余年を拠点として業務運営を行っていた琉球リース総合ビルより、新天地である「琉球銀行新本店ビル」に移転し、新たな環境にチャレンジした年となりました。そして、県経済においても新たなステージとして、夏期の大型テーマパーク「ジャングリア」開業等、国内外観光客の急増による沖縄観光産業の更なる躍進など、観光産業を中心に入域観光客は、２０１９年を大きく上回り、約１０７５万人と過去最高を記録する飛躍の年となりました。

さらには、個人消費や公共投資は底堅く推移し、デジタル・ＩＴ化や省力化投資を中心にいまだ積極的な動向が伺えます。

しかしながら、持続的な物価上昇やエネルギー価格の高騰、中東情勢による経済的影響、さらに深刻化する人手不足、それに伴う人件費の上昇と日銀による31年ぶりの政策金利１％達成など県内の経営環境は依然として厳しい状況といえます。

このような中、弊社を含め、琉球銀行新本店にりゅうぎんグループの主要各社が集結したことを好機とし、グループ総合力の発揮がより行える環境も整いました。今後は、お客様に対してこれまで以上の情報連携や各社のアライアンスを弊社も最大限に活用して、良質なサービスの提供や提案、様々な事案への解決策を講じるべく、真摯に対応してまいります。

今後とも引き続き、ご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

いろんなところで リース 第34回

リースの対象物件といえば、小さなものはOA機器・パソコンから、大きなものは船舶・航空機に至るまで、広い分野にわたって、お客様のニーズに応えています。

そこで、このコーナーでは、当社が選定したリース物件にスポットを当てて紹介します。

環境と安全を支える 建設機械導入をサポート サイレントパイラー

建設工事に欠かせない『杭』は、用途や使用環境に合わせて様々な形状や材質が開発され、構造物の基礎や土を留める擁壁、水をせき止める止水壁など、私たちの生活のあらゆる場面で使用されています。その『杭』を地中に押し込む機械が、今回紹介する圧入機「サイレントパイラー」です。

サイレントパイラーは、既設杭を反力として利用する圧入施工により、低騒音・低振動での施工を可能とする建設機械です。コンパクトな機体設計により、狭隘地や高架下など、従来施工が困難であった現場にも柔軟に対応できる点が大きな特長です。

導入後は、基礎工事現場において活用が進み、従来工法では対応が難しかった条件下でも、安全かつ円滑な施工を実現しています。特に、周辺環境への影響低減や近接施工における安全性向上において、その効果が発揮されています。

建設業界においては、環境への配慮と安全性の確保がますます重要視されています。こうした背景のもと、サイレントパイラーは、現場課題の解決と地域社会への貢献が期待されます。

トレンド調査隊⑰

今、話題の街のトレンドを紹介！

おきなわサイクルツーリズムアクションプラン

沖縄県は令和7年3月に「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」を策定し、自転車を活用した観光「サイクルツーリズム」を推進しています。沖縄らしい自然や文化、地域資源を生かした周遊を促進すると共に、道交法改正に伴う対策と安全なサイクル観光、交通混雑や環境負荷を減らすことで持続可能な観光を目指します。また、地域経済への波及効果や住民の健康増進にも期待が寄せられています。

多くの期待が寄せられるサイクルツーリズム

碧く広がる絶景の海沿いの道や亜熱帯の森を抜ける緑の林道など。沖縄には息をのむような美しいサイクリングコースが数多くあります。その季節ならではの自然の景色や色、音、香り、風や光などをリアルに感じながら旅することができる。徒歩よりも行動半径が広く、クルマでは通りにくい場所にも気軽に立ち寄れる。それが自転車の魅力でもあります。実際、レンタサイクルや電動自転車の普及に伴い、旅先で自転車を利用する人は全国的に増えています。

そのような背景もあり、沖縄県が新たなスポーツツーリズムとして推進に力を入れているのが「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」です。

沖縄県や業界団体などで構成する「おきなわサイクルツーリズム推進協議会」が発表した「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」は、自転車観光「サイクルツーリズム」の推進、沖縄の自然や文化を生かした周遊、交通混雑や環境負荷の軽減、持続可能な観光の実現、地域経済への波及効果や住民の健康増進を目的としています。

主な取り組みとしては、国内外の旅行者向けにサイクリングコースやイベント情報を発信し、安全なサイクリングルートの設定や標識整備、レンタサイクルやEバイク、休憩施設、サイクルラックの環境整備を進め、国の「ナショナルサイクルルート」指定を目指しています。

また、宿泊施設や観光施設での自転車旅行者受け入れ促進、サイクリストと地元住民・他の交通との共存に向けたマナー啓発、交通ルールの周知や安全教育も推進。県、市町村、観光・自転車関連事業者などが連携し、既存のイベントやスポーツツーリズム施策と組み合わせることで相乗効果を目指しています。

アクションプランは、沖縄でサイクリング旅行を計画する際の参考や、観光事業者や宿泊施設がサイクリスト向けサービスを考える際の指針となり、行政や地域団体がサイクルイベントやルート整備を企画する際のベースとして活用できます。

環境負荷の低減と健康増進への期待

先にも述べたように、サイクルツーリズムには、環境や健康面への期待もあります。家庭から出る二酸化炭素の約3割が自動車由来ともされ、自転車への転換はCO_2削減策としても期待されています。沖縄県は「サステナブルツーリズム」を打ち出し、環境負荷の少ない観光形態を重視していますが、「サイクルツーリズム」はレンタカー中心の観光から、自転車や公共交通と組み合わせた低炭素な周遊スタイルへのシフトを目指しています。自転車観光の推進が、交通由来のCO_2削減と渋滞緩和に貢献する観光政策という位置づけです。

また、自転車は有酸素運動として心肺機能を高め、関節への負担が比較的小さく、移動と運動を同時に満たせるため、日常生活に取り入れやすい運動です。「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」では、観光客の楽しみだけでなく、県民の健康づくりにもつながる自転車利用を促します。観光インフラが整えば、通勤・通学や休日の運動にも活用でき、地域全体の健康増進につながると期待しています。

道路交通法の改正と安全なサイクル観光

令和8年4月1日から道路交通法の一部改正により、16歳以上の自転車運転者にも「交通反則通告制度」、いわゆる青切符の適用が始まり、信号無視や一時不停止などに対して簡易で実効性のある制裁が可能になりました。また、自動車が自転車を追い越す際の側方間隔確保義務など、自転車の安全を守るための規定を含む道路交通法改正も進んでいます。

「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」は、こうした法改正の流れも踏まえ、安全なサイクルルート整備や標識・案内の充実、ルールとマナーの周知などを柱に据えています。

観光客も県民も、最新の交通ルールに沿った安全な走行を前提とし、沖縄をサイクリストが楽しめる観光地として育てていくための実行計画です。

道交法改正に沿った安全な自転車利用、CO_2削減や渋滞緩和につながる環境負荷の低い観光、県民と観光客の健康増進を同時に実現する「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」の今後に、期待が寄せられています。

※写真はすべてイメージです。

簡単解説 3分で パッパッ とわかるリースの話

第34回

アカバナー商事
須場社長

このコーナーでは、リースに関するホットな話題、お役立ち情報などをできるだけ簡潔にお伝えします。

琉球リース
早来係長

全国的なリース設備投資の傾向

はい。
これは弊社に限った話ではないと思ってまして、、、
というのも、実は全国的に見ると、リース会社全体のリース取扱高は上がってきているんですよ。

おはようございます！須場社長。

へぇ、そうなのか。
リース業界の話は聞いたことないから興味があるなぁ
教えてくれないかい？

おはよう！早来君。
最近どうだい？

はい。
リース事業協会のリース統計によれば、2025年度のリース取扱高は約5兆2,984億円、前年比で+4.2%となっています。実績としては4年連続で増加しているんです。(※)

いやもう、物価高が止まらないですよね。
私は食べることが好きなもので、食費がどんどん上がってきて大変です。

なるほどな。
感覚的にはリース設備投資額は減っているイメージがあったが、数字で見ると違うんだね。

分かるなぁ。
レジで思ったより高い金額が表示されていて、思わず二度見しちゃうよね。

ですよね(笑)
これを機に少しセーブして、健康意識でも高めたほうがいいのかな、なんて思ってますが、外回りが多いと、ついおいしそうなお店に入ってしまうんですよ。

そうなんです。
リースへの設備投資は着実に増加しているんですよ。
そして、リースする設備投資の内訳が変わってきている、というのが実態ですね。

そうなのかい。
外回りが多いってことは、仕事のほうは調子いいのかい？

ん???
具体的にどういうことなんだ？

はい。
・煩雑な業務
・ボトルネックになっている部分
このような課題を解決するにはDX化を進めることも効果的だと思います。
御社に役に立つ情報があれば、またお話ししますね。

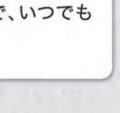
例えば、
・情報通信機器や事務用機器は増加
・土木建設機械や産業機械などは減少傾向
といった具合に、リース設備投資の方向性に違いが表れています。

私はITなどに疎いから苦手意識があったんだが、我社でも業務の中にDX化を進めないといけないなー。

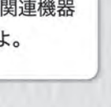
なるほどな…。
今の時代はパソコンや事務機は必需品だし、これがないと仕事できないからね…

その際の設備投資に関しても、当社でいろいろとサポートいたしますので、いつでもご相談ください。

当社も全国の傾向と同じで情報関連機器や事務用品は伸びているんですよ。



それは助かるな。
早速だけど、仕事が忙しくて会社の庭の芝刈りができていないんだ。
明日大事なお客様が来社するのだけど、早来君、だれか手伝ってくれる人はいないかな？笑



ほぉー！
沖縄県も全国的なデータと同じ傾向なんだね。

おっと、頼る当てがありませんので…
もしよかったら私が運動も兼ねて手伝います。

AIの導入やセキュリティ強化が進んでいる世の中なので、これからも情報関連機器などは伸びていくと思いますよ。

冗談だよ(笑)
最近リースしてもらった最新モデルの芝刈り機を使うから大丈夫だよ。
また今度、きちんと設備投資などで相談させていただくよ。

そうだね。
今は人手不足でもあるし、DX化で生産性をあげる必要性があるよね。
私の経営者仲間も、みんなそう言っているよ。

(※)出所：リース事業協会資料。

※本コーナーは、分かりやすさを第一に誌面を構成しているため、厳密には正確でない記述が含まれている場合があります。ご了承ください。

沖縄の経済・金融の拠点として機能してきた琉球リース総合ビル

1974年当時の琉球リースビル

1974年11月に竣工した「琉球リース総合ビル」は、那覇市久茂地のランドマーク的なオフィスビルとして長年親しまれ、沖縄の経済・金融を支える拠点のひとつとして機能してきました。株式会社琉球リースの本社が入居し、今年2月に琉球銀行本店ビルへ移転するまで、50年以上にわたり、ここで沖縄の企業をリース事業で支援し続けてきました。

琉球リース総合ビルは、当社の業務拡大と本店移転を機に建設されました。高度経済成長の追い風を受け、インフラ整備が進む中で、沖縄の産業振興を支えるオフィス・賃貸拠点として久茂地に建設されたことは、地域の発展において大きな意義を持ちました。

建物は地上12階・地下2階の鉄骨鉄筋コンクリート造で、賃貸面積は約15,300㎡。1976年2月には隣接地にタワー式立体駐車場も完成し、利便性を高めました。

ビルが完成した頃は、本土復帰直後の復興期にあり、米軍統治下から日本の制度へと急速に移行する過渡期でした。設備投資の有効な手段としてリース事業が注目される中、同ビルは復興・発展に伴うオフィス需要の拡大に応える拠点として機能しました。さらに、琉球銀行本店ビルに隣接し国道58号線沿いという好立地に建てられたことで、都市整備の象徴的存在となり、現在も現代的な街並み形成に寄与しています。

琉球リースとリースビルの思い出

1972 5月 (株)琉球リースの設立。
最初は琉球銀行本店内に仮営業所を開設し、営業を開始しました。

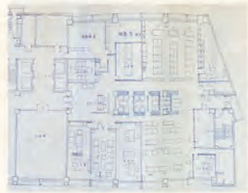
7月 星ビル(那覇市松山1-1-8)本社移転
(従業員:11名程度)

1973 (リースビル)
1973年5月着工

1974 1974年11月竣工

1974年11月竣工時の写真

11月 琉球リース竣工に伴い移転(従業員:16名)
フロア:11階
1980年まで新卒採用を行っておらず従業員は20名前後で推移、事務所の広さも10階事務所と比べると1/3程度でした。1983年社員の増加に伴い事務所を拡張、事務所の広さは倍以上になりました。



◀事務所拡張時の11階フロア図面

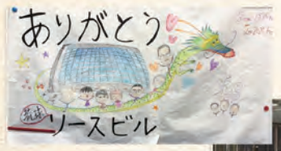
1988 12月 11階から10階へ引っ越し(当時従業員:47名)
2026年2月の本社移転までの38年間
業務運営を行っていました。
2020年以降は60名程度まで推移してました。

1990年当時の写真

2026 2月 琉球銀行本店ビルへ移転

2026年4月6日にグランドオープンした地上13階・地下1階建ての「琉球銀行本店ビル」。同ビルには琉球銀行グループ各社が入居し、(株)琉球リースも2月に移転。上層階にはホテルもオープンしました。

おまけ



2026年2月10日
リースビルから離れることを惜しんで互助会でお別れ会を開催しました。

拠点名	1期~10期 (1972/5~1982/3)	11期~20期 (1982/4~1992/3)	21期~30期 (1992/4~2002/3)	31期~40期 (2002/4~2012/3)	41期~50期 (2012/4~2022/3)	51期~ (2022/4~
琉球リース本社						
琉銀本店仮事務所	→1972/5~7					
星ビル	→1972/7~1974/11					
リースビル	1974/11 11階に移転	1988/12 10階に引越し				

新入社員・中途社員・受入出向者 紹介

これからお世話になります！何卒よろしくお願いします！

本社営業部
事務統括課
當眞　悠嗣

【注目ポイント】
仕事中は緊張して口数少ない人と思われますが、
ちゃんとしゃべります。
【琉球リースで驚いたこと】
優しい人しかいないところです。
【リースのお客様へ一言】
何も考えてないように見えるようですが、そんなことありません。
ゆっくり話しているだけで、ちゃんと考えています。
大丈夫です！！

企画総務部
企画総務課
川上　凜華

【注目ポイント】
正直者なところです！
【琉球リースで驚いたこと】
琉球ゴールデンキングスのファンが多いことです！
皆さん趣味も充実していて、私も見習いたいなと思います！
【リースのお客様へ一言】
少しでも早く、リースを通して県内企業様の
お役に立てるように、頑張っていきます！！

営業部
事務統括課
仲本　百華

【注目ポイント】
やると決めたらやるタイプで、
いくつかの資格の取得にがんばっています！
【琉球リースで驚いたこと】
1日が過ぎるのが早く感じます。また、「もも」がつく方が多く、
自分が呼ばれたのかなと思ってつい反応してしまいます。(笑)
【リースのお客様へ一言】
言葉遣いを意識しすぎて
たまに不思議な日本語になっていたらすみません(笑)
ですが気持ちはしっかり込めて対応します！！

本社営業部
営業課 係長
杉浦　昴

【注目ポイント】
学生時代陸上をやっていたため、
沖縄の人より日焼けしているかなと思います(笑)
【琉球リースで驚いたこと】
ファミリー感が強いことと愛社精神が強いことです。
【リースのお客様へ一言】
県外のリース会社で勤めていましたが、
沖縄が大好きで埼玉県から家族で移住してきました！
おススメの沖縄情報ありましたら教えてください！

**各部署に7名の
新人・中途・受入出向者が
配属されました！**

モビリティ推進部
モビリティ推進課
上原　保士

【注目ポイント】
まつ毛が長いことです。
【琉球リースで驚いたこと】
（いじってくれるところも含めて）
先輩たちがとても優しいです。
【リースのお客様へ一言】
この度、琉球リースの一員になりました上原保士です。
これから元気よく精一杯頑張っていきます。
宜しくお願いします。

企画総務部
経理課
比嘉　桃花

【注目ポイント】
シャイと見せかけて慣れたらお喋りです。
また高校は電卓部でした。
【琉球リースで驚いたこと】
社内行事でヤギ汁が出てきたことです。
【リースのお客様へ一言】
前職は業務用の販売会社で経理をしておりました。
リース業界は初めてなので日々学びながら頑張ります！
よろしくお願いします。

営業部
事務統括課
具志堅　旭

【注目ポイント】
アメリカ仕込みのフットワークの軽さ(笑)
【琉球リースで驚いたこと】
みなさん優しくて、すぐに琉球リースの環境になじめました。
【リースのお客様へ一言】
今春より琉球銀行から出向しております。
琉球リースでお客様と自分の
より良い明日を一緒に考えます。

沖縄のクリエイター

壺屋焼きの伝統を受け継ぎながら、時代に寄り添う器づくりに取り組む育陶園。

「先祖代々受け継がれてきた技や想い、そしてこの壺屋の景色を、次の世代へつなげていきたい」と語る代表の高江洲若菜さん。沖縄の土と手づくりの釉薬にこだわり、伝統と現代の暮らしをつなぐものづくりを大切にしています。

育陶園は、ものづくりの積み重ねを通して、この壺屋の景色を未来へとつなぎ、器を通して、人の手の温もりや、人と人との関係性が生むあたたかさを届けていきます。

作者紹介　壺屋焼窯元 育陶園

壺屋焼窯元 育陶園 本店
那覇市壺屋1−22−33
☎ 098-866-1635
https://www.ikutouen.com

Profile

壺屋の地で代々壺屋焼を営んできた窯元の一つ。現陶主6代目・高江洲忠氏は線彫技法を得意とした日用器や、5代目で現代の名工でもあった育男氏の獅子の型を受け継いだ獅子づくりを得意としています。伝統を大切にしながら、現代の暮らしに合うデザインを追求し、モダン&伝統的なやちむんを造り続けています。壺屋やちむん通りには本店をはじめ複数店舗があり、器の販売や陶芸体験教室も運営。忠氏の長男・尚平氏が7代目として、長女の若菜氏が代表取締役として、手しごとから生まれるやちむんの魅力を多角的に伝えています。

今回の表紙について

育陶園を代表する唐草線彫の器。焼成前の土の状態に、下絵なしで柄を彫っていくため、ベテランの職人しか手がけることが出来ない難しい技法です。

製作作品

躍動感に満ちた育陶園の獅子。5代目で現代の名工・高江洲育男氏の「型」をベースに、凛とした力強さの中にもやさしさ・しなやかさを表現しています。

伝統と革新をテーマに、壺屋焼の老舗窯元として先祖代々受け継がれてきた技術・技法を用いながら、美しい壺屋焼を目指し製作しています。

代表取締役　高江洲 若菜 さん